

2021年2月4日
太平洋工業株式会社

2021年3月期 第3四半期 決算説明会 質疑応答要旨

《プレス・樹脂事業》

Q：3Qは原価改善と販売物量回復を背景に高い利益率となっているが、今後の利益率水準はどうなるのか。

A：今年度はコロナ影響による上期の物量減少の状況下で、経費節減等の収益改善を行ってきた。3Qの物量回復下でも効果が継続しており、固定費の改善が帯で効いてきている。4Qの見通しについては、半導体需給やコロナ影響でトヨタ生産台数は3Qほどには強くないと見ている。3Q並みの生産台数になれば、今の予想より利益率は改善すると見ている。

Q：プレス事業の目指すべき収益性のレベル感について、考え方を教えてほしい。

A：利益体質としては、2Qと3Qの間くらいの利益率で推移すればよいと考えている。例年は4Qに国内生産台数が最も多くなる傾向があるが、今年に限っては3Qが一番多い状況。4Qは2Qに近い生産台数と見ているため、利益率も2Qと3Qの間を行き来するようなレベルになると考えている。

《バルブ事業》

Q：欧州の状況について、足元の状況から来期の見方、リスクサイドの考え方を教えてほしい。

A：欧州はフランスに拠点があり、決算期は12月となっている。次回4Qと連結するのは10-12月になる。現在、足元の状況としては、順次回復しつつあるが、欧州は日本・アメリカ・中国と比べると回復が遅く、前年同期比でみると8~9割程度の稼働となっている。4Qと来期も影響が残るのではないかと考えている。

以上